

# 八清親和会 自治会役員のひとり言

令和3年2月17日

No27

八清親和会 副会長

吉田祐治

- ◆東京都の「緊急事態宣言」は3月7日まで延長されたが、日々発表、報道される新規感染者数や重症者の減少数字を見て、安心して気が緩んだり、油断してはいないか！
  - \*また、これらの数字だけで、第3波が収束しているかのように見えるが、本当に収束しているのか！
  - \*東京都の「緊急事態宣言」延長理由は「医療逼迫がまだ改善されていない」からである。感染者や重症患者の減少数字に目が行きがちであるが、これを裏付ける数字や内容にも注視する必要がある。
- したがって、まだまだ、安心はできない、緊張感を持って感染予防対策の徹底と、感染予防の行動を継続する必要がある。
- ◇ 17日東京都の新規感染者は378人が確認され、2月7日以降500人を下回っている。また、重症患者も87人まで減り、2月15日以降100人を下回り、1月1日以来の低い人数になったと報じられ、安心していているように思える。しかし、これで本当に第3波が収束に向かっていると思っよいのだろうか？
  - ◇ 例えば、
    1. 新規感染者は、確かに数字上は減少しているが、この新規感染者に対する検査実施件数の陽性率に於いて、本当に減少しているのか？ また検査数は実態を反映しているか？
    2. 重症患者は減少しているが、これは回復したためなのか、逆に死者が増加しているは何故か？
    3. 感謝・患者の総数もピーク時から大幅に減少しているが、医療体制の逼迫により、1月18日東京都の感染者ならびに患者が過去最多の20,777人となり、入院先、宿泊療養施設への受け入れ先が決まらず、自宅待機状態の感染者・患者が7,481人まで増加し、本来入院・宿泊施設入所が必要な軽症・中等症患者を含め、自宅療養患者が9,442人まで増加したことは記憶に新しい。また、この人たちから死者が出たことも記憶に新しい。そして東京都は、28日時点で病床を700床増やし、重症病床265床を含む病床確保が4,700床となり、さらに200床増やすという方針であった。これにより入院中患者や宿泊施設療養患者も増えるものと思っていたが、今だ1日の新規感染者の2倍近くの「入院先、宿泊療養施設への受け入れ先が決まらず、自宅待機状態の感染者・患者」がいる。そして、入院患者は、1月18日のピーク3,011人（病床）を境に、また宿泊療養者も843人を境に、逆に減少し続け、2月17日現在入院中は2,232人の26%減少、宿泊療養者も425人でほぼ50%の減少である。なぜ、数字上病床、宿泊施設に余裕があっても、依然入院先、宿泊療養施設への受け入れ先が決まらず、自宅待機状態で待ちの患者が700人以上もいるのに、入れないのか？
    4. 17日の数字を見たら、入院・宿泊施設受け入れ先待ちの、700人の患者を上回る入院病床や宿泊施設の空きが出ており、これらの待機者が“0”になってもよいはずである。なぜ、無くならないのか？ これらを調整する保健所の業務逼迫が改善されないためか？

などなど、発表されない、報道されない、されても継続した発表、報道ではなく、ピンポイントにより、数字との整合や関連がよく見えない、理解できないのが実状ではないかと思う。したがって、これからも上記の4項目を特に注視して感染状況を見ていく必要がある。

以上